

## 研究ノート

# 「スウェーデン人の心のふるさと？」 ：ダーラナ地方に関するアンケート調査から」

古川 まゆみ

## はじめに

北欧諸国の1つ、スウェーデンには「最もスウェーデン的」、「スウェーデン人の心のふるさと」と称される「ダーラナ地方」が存在する。ダーラナ地方<sup>1)</sup>とはスウェーデン中部に位置する国内で総計25を数える「地方」(landskap)<sup>2)</sup>の1つで、面積29万860km<sup>2</sup>、人口28万7,184人(1991年)を擁し、面積では国内4番め、人口では同8番めの地方である。スカンジナビア政府観光局発行のスウェーデン案内小冊子には、ストックホルムやイエテボリなど代表的な都市のほか、観光に値する「地方」が幾つか紹介されているが、ダーラナ地方については以下のようなのである。a.「昔からの伝統が強く残っているところ」、b.「古くからの伝統が忠実に引き継がれて、…」、c.「スウェーデンらしい伝統が最も色濃く残っている地域」、d.「昔からの伝統を守る文化的風土が残されている土地として有名」などである。<sup>3)</sup>スウェーデンの他の「地方」についてはこのような記述は見られない。すなわちダーラナ地方とは、スウェーデン本来の伝統が現在でも息づいていると公言される国内唯一の「地方」であり、それ故冒頭で記したように、「最もスウェーデン的」、「スウェーデン人の心のふるさと」などと呼ばれているのである。

確かにダーラナ地方では「伝統」あるいは「伝統文化」と呼ぶにふさわしい事象を多数指摘することが可能である。スウェー

デンのどの地方よりも量、種類ともに豊富な民俗衣装<sup>4)</sup>、フィオーレ(ヴァイオリンに似た楽器)の音色が美しい民俗音楽、出身教区ごとに異なる民俗衣装をまとったフォークダンス、白樺細工、機織り、刺繍などの手工芸品など枚挙に暇がない。特に手工芸品に関しては、現在スウェーデンのシンボルとして対外的に表象されている赤い木馬は“dalahäst”(「ダーラナの馬」の意)<sup>5)</sup>と呼ばれ、ダーラナ地方の伝統的な特産品である。歴史上も重要な位置を占め、16世紀前半、デンマークに占領されていたスウェーデンを独立させるべく、後の国王、グスタフ・バーサに協力した農民達を輩出したのもこの地方であった。<sup>6)</sup>

私自身、スウェーデンに来てまもなく、ダーラナの特異性を認識させられたことがあった。到着して最初の仕事は調査村落探しであったが、その時選択基準として挙げた項目には以下のものが含まれていた。

1) 4,50年以上前に遡る年中行事、社会組織があること。2) 年中行事は観光のためではなく、村落住民のために存続していること。3) 4,50年以上、1つの家系で継承されている家があり、その家屋の一部にでも古い住居形態が残っていること。

3か月に渡る調査地探しの結果、これらの基準を満たす唯一の場所として浮上したのがダーラナ地方であった。大学や博物館のエスノロジスト達は私の選択基準を一読するとすぐにダーラナ地方の名を挙げ、現代のスウェーデンで、この地方以外に上記の選択基準を満たす村落が見つかる可能性を

否定した。こうして伝統の色彩が他を抜きん出て強いことが公認されているダーラナ地方が私の調査村落に決まったのである<sup>7)</sup>。

本稿は、調査を開始してまもなく、ストックホルムとダーラナで実施した「ダーラナ地方に関するアンケート調査」の分析、検討である。上述のように、ダーラナ地方については、政府の観光局でも大学や博物館の学術研究者の間でも当然のように、国内で一番伝統文化が強く残っているところと公言されている。しかし、こうした言わば、「公の言説」が実態に合うものなのかどうか、換言すれば、一般のスウェーデン人は本当にダーラナ地方を「最もスウェーデン的」、「スウェーデン人の心のふるさと」などと信じているのかという疑問は私の頭から長いこと離れなかった。その理由の1つは、スウェーデン以外のヨーロッパで、1国民が共有する「心のふるさと」、或いはその国を代表するにふさわしいと公認されている「伝統文化」を擁した「地方」を聞いたことがなかったからである。またダーラナ地方の伝統文化表象の例として、民俗衣装や民俗音楽などを先に挙げたが、このようなものは、規模、種類が小さくはなるがスウェーデンのほとんどの各地方に見られるのである。夏期には、各地の野外博物館で「郷土文化の日」(hembygdsgdag)という行事が催されるが、その内容はダーラナ地方も他の地方もほとんど変わらない。そこでは民俗衣装で着飾った老若男女のフォークダンスや民俗音楽の調べ、手工芸品の制作実演などが催され、帰省客や観光客、そして地元の住民達が楽しそうに敷地内を散策していた。スウェーデン人の故郷に対する帰属意識もかなり強く、民俗衣装に関しては、たとえどんなにひかれたとしても他郷の衣装を購入するということを聞いたことがなかった。5, 6週間にも及ぶ長い夏期休暇を過ごすのに不可欠なサマーハウスを故郷の地に所有することも一般的であるし、その故郷の自然や

文化に対する愛情も深い。ちなみに「伝統」という言葉はスウェーデンではかなり肯定的な意味合いで使われ(Löfgren & Gaunt 1985: 14)、上述の「郷土文化の日」が全国的な行事になっていることから想像つくように、人々は生れ故郷の伝統文化に親近感を覚えていることが多いのである。このような強い郷土意識を持ったスウェーデン人が、自分のふるさと以外に「心のふるさと」を持てるのだろうか。こうした疑問に少しでも答えるべく、また、調査地として「ダーラナ地方」を選択した以上、改めて「公の言説」を検討する必要性を感じたのでアンケート調査に踏み切ったのであった。

## 1. 目的と方法

アンケートの目的は、一般のスウェーデン人のダーラナ地方に対する思いを数値化することと、それを他の地方と比較することにより、ダーラナに対する思いが際立っているかどうか、すなわち、「公の言説」が読みとれるかどうかを検討することである。実施地は首都ストックホルムとダーラナ地方(レクサンド市)の2か所に設定した。ストックホルム選択の理由は、ここではストックホルム出身者のみならず各地方からの出身者も多いため、その回答にはより平均的なスウェーデン人の意向が反映されると思ったからである<sup>8)</sup>。またストックホルムはダーラナの人々にとって主要な求職地であり、ダーラナの「伝統文化」の理解と保護育成にストックホルムの人々(ストックホルム出身者およびストックホルムからの帰郷者)の役割が大きかった<sup>9)</sup>ので彼らの回答動向も把握したいと思った。ダーラナ地方でも実施した理由は、ストックホルムでの結果と差異が見られるかどうか、またダーラナ在住の人々は自分達の日常生活圏をどう認識しているのか、「最もスウェーデン的」、「スウェーデン人の心のふる

さと」、あるいは「伝統文化」などと意識しているのかを知るためである。実施場所は、ストックホルムでは中央駅の待合室と市立歴史博物館が一番多く、そのほかにストックホルム大学や同学生寮、市中の飲食店などがある。ダーラナ地方（レクサンド市）では私の調査村落L村や隣村T村の人々、市内中心街の通行人、市立図書館や博物館の来館者に協力を依頼した。回答者数は、ストックホルムでは129名、ダーラナでは72名である。年齢層の偏りを避けるために双方とも各年齢層の人数をほぼ同じにした。質問設定で注意したことは、アンケートが「ダーラナ地方」に関することと察知されないよう、国内で25を数える「地方」に関する問の体裁にしたことである。「ダーラナ地方」についての問が明白な場合、判で押したように「伝統の強い地域」という答えが返ってくることは容易に予想できたからである。調査は1991年の4月と5月に実施した。アンケートの作成にあたっては、ストックホルム大学エスノロジー研究所のÅke Daun教授から指導と助言を頂いた<sup>10)</sup>。

## 2. ダーラナ地方に関するアンケート調査

次節（2-1.）がストックホルムとダーラナ地方で実施したアンケート調査の質問項目である。原文のスウェーデン語については資料（1）を参照されたい。アンケートの集計結果は、2-2. に記載した。

### 2-1. 質問項目

1) もしもあなたが外国人に典型的なスウェーデンの地方名を挙げるとしたらどの地方を選びますか。下記（＜地方名＞1.～25.）の中からその3つを選びなさい<sup>11)</sup>。  
 (            ) (            ) (            )

2) どの地方にあなたは旅行したり、または休暇を過ごしたりしたいですか。下記の中から3つを選びなさい。  
 (            ) (            ) (            )

3) どの地方に昔からの風俗習慣が最も強く残っていると思いますか。下記の中から3つを選びなさい。  
 (            ) (            ) (            )

#### ＜地方名＞

1. ラップランド 2. ノルボッテン 3. ヴェステルボッテン 4. オンゲルマンランド 5. イエムトランド 6. ヘリエダーレン 7. メーデルパード 8. ヘルシングランド 9. イエストリークランド 10. ダーラナ 11. ウップランド 12. ヴェストマンランド 13. ネルケ 14. シューデルマンランド 15. ヴェルムランド 16. ウステルユトランド 17. ヴェステルユトランド 18. スモーランド 19. プレーキング 20. スコーネ 21. ハランド 22. ダールスランド 23. ウーランド 24. ゴットランド 25. ボーフースレーン

4) どの言葉で以下の3つの地方を表現できますか。下記に挙げた言葉（a.～e.）の中に適切なものがありますか。もしあればそれを選んで下さい<sup>12)</sup>。

ラップランド (            )

ダーラナ (            )

スモーランド (            )

- a. 開放性 b. 保守性 c. 先進性  
 d. ノスタルジア  
 e. 伝統的スウェーデン文化

5) あなたの出身地はどこですか。  
 (            ) スtockホルム  
 (            ) その他（上記の地方名の番号を記して下さい。）

6) あなたの年はいくつですか。

- ( ) 19歳以下 ( ) 20-29歳  
 ( ) 30-39歳 ( ) 40-49歳  
 ( ) 50-59歳 ( ) 60歳以上

## 2-2. 結果

以下、アンケートの集計結果をストックホルムとダーラナ地方に分けて掲載する。

### 2-2-1. ストックホルム (129名)

1) 外国人に名前を挙げるべき典型的なスウェーデンの地方

a. 1番始めに名前が挙がった地方<sup>13)</sup>

- |               |              |
|---------------|--------------|
| 1. ダーラナ       | 48名 (37,2 %) |
| 2. ヴェルムランド    | 13名 (10,07%) |
| 3. ラップランド     | 11名 ( 8,5 %) |
| 4. シューデルマンランド | 8名 ( 6,2 %)  |
| 5. ノルボッテン     | 6名 ( 4,6 %)  |

b. 名前が挙がった地方<sup>14)</sup>

- |            |             |
|------------|-------------|
| 1. ダーラナ    | 92名 (71,3%) |
| 2. ヴェルムランド | 38名 (29,4%) |
| 3. スモーランド  | 37名 (28,6%) |
| 4. スコーネ    | 36名 (27,9%) |
| 5. ラップランド  | 26名 (20,1%) |

2) 旅行したり、休暇を過ごしたりしたい地方

a. 1番始めに名前が挙がった地方

- |                |             |
|----------------|-------------|
| 1. ゴットランド      | 23名 (17,8%) |
| 2. スコーネ        | 12名 ( 9,3%) |
| 3. ヴェルムランド     | 11名 ( 8,5%) |
| 4. ダーラナ・ラップランド | 10名 ( 7,7%) |
| 5. シューデルマンランド  | 9名 ( 6,9%)  |

b. 名前が挙がった地方

- |           |             |
|-----------|-------------|
| 1. ゴットランド | 54名 (41,8%) |
| 2. ダーラナ   | 41名 (31,7%) |
| 3. スコーネ   | 30名 (23,2%) |
| 4. ラップランド | 27名 (20,9%) |

5. ヴェルムランド 26名 (20,1%)

3) 昔からの風俗習慣が強く残っている地方

a. 1番始めに名前が挙がった地方

- |            |             |
|------------|-------------|
| 1. ダーラナ    | 51名 (39,5%) |
| 2. ラップランド  | 29名 (22,4%) |
| 3. スモーランド  | 9名 ( 6,9%)  |
| 4. ノルボッテン  | 8名 ( 6,2%)  |
| 5. ヴェルムランド | 6名 ( 4,6%)  |

b. 名前が挙がった地方

- |            |             |
|------------|-------------|
| 1. ダーラナ    | 77名 (59,6%) |
| 2. ラップランド  | 46名 (35,6%) |
| 3. ヴェルムランド | 30名 (23,2%) |
| 4. ゴットランド  | 28名 (21,7%) |
| 5. スモーランド  | 24名 (18,6%) |

4) 3つの地方(ラップランド、ダーラナ、スモーランド)を表現するのに適切な言葉

ラップランド

- |                |             |
|----------------|-------------|
| 1. 伝統的スウェーデン文化 | 26名 (20,1%) |
| 1. 開放性         | 26名 (20,1%) |
| 2. 保守性         | 23名 (17,8%) |
| 3. ノスタルジア      | 9名 ( 6,9%)  |
| 4. 先進性         | 1名 ( 0,7%)  |

ダーラナ

- |                |             |
|----------------|-------------|
| 1. 伝統的スウェーデン文化 | 88名 (68,2%) |
| 2. ノスタルジア      | 18名 (13,9%) |
| 3. 開放性         | 11名 ( 8,5%) |
| 4. 保守性         | 7名 ( 5,4%)  |
| 5. 先進性         | 1名 ( 0,7%)  |

スモーランド

- |                |             |
|----------------|-------------|
| 1. 保守性         | 36名 (27,9%) |
| 2. 伝統的スウェーデン文化 | 20名 (15,5%) |
| 3. ノスタルジア      | 18名 (13,9%) |
| 4. 開放性         | 11名 ( 8,5%) |
| 5. 先進性         | 6名 ( 4,6%)  |

## 5) 回答者の出身地

ストックホルム	58名 (44,9%)
地方	71名 (55%)
内訳)	
17. ヴェステルユトランド	10名
10. ダーラナ・11. ウップランド	
15. ヴェルムランド・20. スコーネ	
(以上、4 地方)	各 6 名
2. ノルボッテン・5. イエムトランド	
(以上、2 地方)	各 5 名
25. ボーフォースレーン	4 名
12. ヴェストマンランド・13. ネルケ	
・14. シューデルマンランド (以上、	
3 地方)	各 3 名
7. メーデルパード・16. ウステルユ	
トランド・18. スモーランド・21. ハ	
ランド (以上、4 地方)	各 2 名
4. オンゲルマンランド・8. ヘルシ	
ングランド・24. ゴットランド (以上、	
3 地方)	各 1 名
不明	3 名

## 6) 年齢層 (全129名中)

19歳以下	22名 (17%)
20-29歳	21名 (16,2%)
30-39歳	24名 (18,6%)
40-49歳	20名 (15,5%)
50-59歳	18名 (13,9%)
60歳以上	24名 (18,6%)

## 2-2-2. ダーラナ (72名中)

## 1) 外国人に名前を挙げるべき典型的なスウェーデンの地方

a. 1 番始めに名前が挙げた地方<sup>15)</sup>

1. ダーラナ	52名 (72,2%)
2. ラップランド	6 名 ( 8,3%)
3. スモーランド	5 名 ( 6,9%)
4. オンゲルマンランド・	
ウップランド・スコーネ	2 名 ( 2,7%)

b. 名前が挙げた地方<sup>16)</sup>

1. ダーラナ	68名 (94,4%)
2. ラップランド	24名 (33,3%)
3. スモーランド	20名 (27,7%)
4. ヘルシングランド	16名 (22,2%)

## 2) 旅行したり、休暇を過ごしたりしたい地方

## a. 1 番始めに名前が挙げた地方

1. ダーラナ	27名 (37,5%)
2. ゴットランド	9 名 (12,5%)
3. スコーネ	5 名 ( 6,9%)
4. オンゲルマンランド・イエムトラン	
ド・ウップランド・スモーランド	3 名 ( 4,1%)

## b. 名前が挙げた地方

1. ダーラナ	43名 (59,7 %)
2. ゴットランド	31名 (43,05%)
3. ウップランド	17名 (23,6 %)
4. スコーネ	16名 (22,2 %)

## 3) 昔からの風俗習慣が強く残っている地方

## a. 1 番始めに名前が挙げた地方

1. ダーラナ	44名 (61,1%)
2. ラップランド	12名 (16,6%)
3. ヘルシングランド	6 名 ( 8,3%)
4. ノルボッテン	4 名 ( 5,5%)

## b. 名前が挙げた地方

1. ダーラナ	58名 (80,5%)
2. ラップランド	24名 (33,3%)
3. ゴットランド	21名 (29,1%)
4. ヘルシングランド	15名 (20,8%)

## 4) 3つの地方 (ラップランド・ダーラナ・スモーランド) を表現するのに適切な言葉

## ラップランド

1. 伝統的スウェーデン文化	15名 (20,8 %)
2. 開放性・保守性	13名 (18,05%)

- |           |            |
|-----------|------------|
| 3. ノスタルジア | 5名 (6,9 %) |
| 4. 先進性    | 1名 (1,3 %) |

#### ダーラナ

- |                |             |
|----------------|-------------|
| 1. 伝統的スウェーデン文化 | 53名 (73,6%) |
| 2. ノスタルジア      | 12名 (16,6%) |
| 3. 保守性         | 11名 (15,2%) |
| 4. 開放性         | 1名 (1,38%)  |

#### スモーランド

- |                |              |
|----------------|--------------|
| 1. 伝統的スウェーデン文化 | 18名 (25%)    |
| 2. 開放性         | 13名 (18,05%) |
| 3. 先進性         | 9名 (12,5 %)  |
| 4. 保守性・ノスタルジア  | 6名 (8,3 %)   |

#### 5) 回答者の出身地

- |         |     |
|---------|-----|
| ダーラナ    | 45名 |
| ストックホルム | 12名 |
| 他の地方    | 15名 |

#### 内訳)

- |              |     |                  |       |                |       |
|--------------|-----|------------------|-------|----------------|-------|
| 2. オンゲルマンランド | 11. | ウップランド (以上、2 地方) | 各 2 名 |                |       |
| 3. ヴェステルボッテン | 5.  | イエムトランド          | 12.   | ヴェストマンランド      |       |
| 13. ネルケ      | 14. | シュエデルマンランド       | 17.   | ヴェステルユトランド     | 18.   |
| スモーランド       | 19. | ブレーキング           | 20.   | スコーネ (以上、9 地方) | 各 1 名 |
| 不明           |     |                  |       |                | 2 名   |

#### 6) 回答者の年齢層 (全72名中)

- |        |             |
|--------|-------------|
| 19歳以下  | 11名 (15,2%) |
| 20-29歳 | 14名 (19,4%) |
| 30-39歳 | 10名 (13,8%) |
| 40-49歳 | 14名 (19,4%) |
| 50-59歳 | 12名 (16,6%) |
| 60歳以上  | 11名 (15,2%) |

### 3. 分 析

ストックホルム、ダーラナの双方で実施したアンケート調査の結果を質問項目

{1) ~ 4)} 別に分析してみる。質問項目1) から3) については、回答者は答として、地方名を優先順位の高い方から順に3つまで記入してよいが、集計の際、前節(2-2. 結果)で示したように、1番最初に挙げた地方名(「a. 1番始めに名前が挙げた地方」に記載)と、1番最初とは限らないが、とにかく、3つの( )のどこかに挙げた地方名(「b. 名前が挙げた地方」に記載)の2種類に分けて回答結果を出した。各質問の答としては、「a. 1番始めに名前が挙げた地方」の回答結果の方がより信憑性が高いと言えるが、「b. 名前が挙げた地方」についても、各質問に対する回答者のより幅広い選択結果が表れているので大いに参考にした。

#### 3-1. 1) 外国人に名前を挙げるべき典型的なスウェーデンの地方

ここでは典型的スウェーデン、すなわち、「最もスウェーデン的」と称される地方として、ダーラナ地方がどの程度認識されているのかを見るのが質問の趣旨である。結果はストックホルム、ダーラナの双方において、「a. 1番始めに名前が挙げた地方」<sup>17)</sup>、「b. 名前が挙げた地方」<sup>18)</sup>のどちらについてもダーラナ地方が1位を占めた。

ストックホルムにおいて、a. のダーラナ地方、37,2%という数字は突出して高い値ではないが、2位のヴェルムランド(10,07%)を27ポイント引き離しているため相対的な「高さ」を感じることは可能である。b. を見るとダーラナ地方は71,3%にまで跳ね上がり、2位(ヴェルムランド、29,4%)との開きも42ポイントにまで達しているため、全体的にはストックホルムの人々、すなわちスウェーデン人一般がダーラナ地方を「最もスウェーデン的」とみなしていると判断できよう。

ダーラナ地方での結果は、a. でダーラ

ナ地方の選択率は72,2%に上り、2位（ラップランド、8,3%）との差は実に64ポイントにまで開き、この時点で既にストックホルムのb.（71,3%）を越している。更にダーラナのb.に至っては94,4%にまで上昇し、ダーラナの住民達が自分たちの生活圏を「最もスウェーデン的」とみなす思い入れの強さを示す数字が出た。

尚、ストックホルムのb.で、1位のダーラナ（71,3%）の後、ヴェルムランド（29,4%）、スモーランド（28,6%）、スコーネ（27,9%）、ラップランド（20,1%）の各地方が続いている。どれも選択率では20%代で、ダーラナに比較するとかなり低い値だが、偶然にも本稿の冒頭（「はじめに」）で述べたスカンジナビア政府観光局発行のスウェーデン観光案内小冊子に掲載されている地方であった。

### 3-2. 2) 旅行したり、休暇を過ごしたりしたい地方

この質問項目に特別の趣旨はない。他の2つの質問、1)及び3)はダーラナの回答率を調べる目的で作成されたが、ここではそのようなことはなく、他の質問項目の趣旨を悟られないよう、付けたしの意味で設定した。とはいえダーラナの名がどの程度浮上するのかについてはやはり興味がある。

結果は、ストックホルムのa.でダーラナ地方の順位はわずか7,7%の4位、b.では31,7%の2位であった。b.の2位、31,7%という値は、3位の23,2%、4位の20,9%、5位の20,1%と比べて突出しているわけでもないのに、相対的に見ても特に高い数字とは言えない。また1位（ゴットランド、41,8%）とも大きな開きはない。これは、「旅行」や「休暇」を過ごす地方には個人の好みが強く反映されるので、スウェーデン人一般に共通する1地方を挙げることの困難さを物語っていると思われる。

それを考えると全国で総計25の地方の中からダーラナ地方が2位に選ばれた事実は注目すべきこととも思えてくる。またここでも1位から5位までに選ばれた地方（順にゴットランド、ダーラナ、スコーネ、ラップランド、ヴェルムランド）は、前述のスウェーデン観光案内小冊子の中にも取り上げられていた。

ダーラナ地方では、a. b.ともに1位であるが、質問項目、1)や3)の回答結果と比べると、ダーラナを選択した数値は低く、a.では37,5%、b.では59,7%にとどまっている。それでもa.に関しては2位（ゴットランド、12,5%）との差が25ポイントあり、b.についても2位（同じくゴットランド、43,5%）との差が16ポイントなので相対的な「高さ」を認めることはできよう。低い値とはいえ、ダーラナ在住者のダーラナへの思いをここでも読み取することは可能である。

蛇足だが、2)全般の回答結果で興味深かったことは、ゴットランドの位置である。ストックホルムでは絶対値は低くともa.（17,8%）、b.（41,8%）ともに1位、ダーラナでもダーラナ地方に続いてa. b.ともに2位を占めている。ゴットランドはバルト海に浮かぶ中世の面影が色濃く残っている島で、ストックホルムからは飛行機で40分程で到着することができる国内有数の観光地である。今回、本稿では取り上げないが、ゴットランドのようにアンケートで頻繁に名前の挙がった地方については改めて考察する必要を感じた。

### 3-3. 3) 昔からの風俗習慣が強く残っている地方

ここでも1)と同じく、ダーラナ地方がどの程度古い風俗習慣、すなわち、「伝統」を残している場所として認識されているのかを読みとることが質問の趣旨である。結果は、ストックホルム、ダーラナの双方

において、a. b. とともにダーラナが1位であった。しかし2つの場所の意味するところは異なっている。

ストックホルムでは、a. が39,5%, b. が59,6%である。a. については2位のラップランド(22,4%)との差が17ポイント強、3位に至っては30ポイント以上も引き離している。なので相対的に「高い」値と見られなくもない。しかし、b. (59,6%) になると1位とはいえ6割を切っている。確かに2位(ラップランド、35,6%)との差が24ポイントあるので相対的には問題なく高い値ではある。しかし全体で6割に満たない選択率は、ダーラナ地方の絶対的優位を示す値と判断するには無理があろう。それ故、総じてストックホルムの人々、すなわちスウェーデン人一般の間では、ダーラナ地方が「昔からの風俗習慣を残す地方」であることは否定しないけれども、「ダーラナ地方」=「古い風俗習慣や伝統文化を体現しているスウェーデンの代表的地方」という総意を得るまでには至っていないとの見方ができると思われる。

それに対してダーラナ地方では、a. で61,1%と、ストックホルムのb. (59,6%)を既に凌ぎ、b. に至っては80,5%にも達している。2位との差もa. で既に45ポイント、b. ではそれを更に上回る47ポイントにもなっている。ここからダーラナ地方の住民達が、自分たちの生活圏に「昔からの風俗習慣」や「伝統」の存在をはっきり自覚していることが読み取れた。

尚、ストックホルム、ダーラナのa. b. とともに2位にはラップランドが位置している。これは、次の質問4)において、ストックホルム、ダーラナともに「伝統的スウェーデン文化」がラップランドを表現する言葉の1位に選ばれたことを想起させる。また上記1)、2)の結果と同じく、ここでもストックホルムのb. で選ばれた地方(1位から順に、ダーラナ、ラップランド、

ヴェルムランド、ゴットランド、スモーランド)はスウェーデン観光案内小冊子の中に掲載されていた。

### 3-4. 4) 3つの地方(ラップランド、ダーラナ、スモーランド)を表現するのに適切な言葉

ここでは上記1)から3)のように1地方の選択が問われているのではなく、逆に既に選択された特定の3地方について思いあたる言葉を選ぶという逆形式の設問になっている。3つの地方については、ダーラナ以外は、それぞれ順に北部(ラップランド)と南部(スモーランド)の「地方」の中から選択した。設問に対する答の選択肢として挙げたa. からe. までの5つの言葉の中に適切なものが見当たらない場合、記入の必要はなく、逆に、2つ以上ある場合、複数回答をお願いした。これまでの問、1)から3)では、ダーラナ地方の存在は全国25の地方の中に埋もれ、表に出ることはなかったが、ここでは「ダーラナ」という地方名をはっきり提示し、この地方を「伝統的スウェーデン文化」とみなす割合を数値化しようとした。またこの言葉がダーラナ以外の地方でどの程度認識できるのかを調べることも質問の趣旨である。

結果は、ストックホルムの場合、ダーラナ地方とラップランド地方に関して、「伝統的スウェーデン文化」が第1位を占めたが、その値はラップランド地方が20,1%に対し、ダーラナ地方は68,2%と大きな開きが出た。ダーラナにおいては、3つの地方ともその地方を表現する言葉として「伝統的スウェーデン文化」が1位に選ばれた。しかしここでもラップランド地方が20,8%、スモーランド地方が25%と、双方とも20%代にとどまっているのに対し、ダーラナ地方の値は73,6%と他の2つの地方を大きく引き離している。

このことはダーラナ地方と他の地方とで



は1位に選ばれた言葉の重みが全く異なることを意味している。ダーラナ地方に関しては、1位と2位との差が極端に大きいのに対し、他の2つの地方についてはそれは見られない。ダーラナ地方に関しては、ストックホルムで2位の「ノスタルジア」(13,9%)を55ポイント、ダーラナでも同じく2位に挙げた「ノスタルジア」(16,6%)を57ポイントも引き離している。それに対し、同じ1位でもラップランド地方はストックホルムの場合、単独1位ではなく、別の言葉、「開放性」と同値で並んだ1位であり、その上、2位の「保守性」(17,8%)との差もせいぜい3ポイントにすぎない。ダーラナにおいても2位の「開放性」・「保守性」(18,05%)との差はわずか2ポイントである。スモーランド地方の場合も、ダーラナでは「伝統的スウェーデン文化」が1位に挙げられているが、2位の開放性(18,5%)との差は7ポイント足らずである。つまり、ダーラナ以外の地方では、「伝統的スウェーデン文化」という言葉は、その地方を表現する多様な選択肢の1つにすぎず、必ずしもこれだけにその地方の特色が集約されているわけではない。しかし、ダーラナ地方については「伝統的スウェーデン文化」の一言でその表現は十分であるし、また、この言葉は不可欠でもある。

更に興味深いのは、ダーラナ地方を表現する言葉として、ストックホルム、ダーラナの双方とも「ノスタルジア」が2位に挙げられていることである。尤も選択率はストックホルム、13,9%、ダーラナ、16,6%とかなり低い。しかしノスタルジアとは郷愁、望郷心の意味で「心のふるさと」を連想し、「伝統的スウェーデン文化」とも通じるところがある。他の2つの地方に関しては、1位と2位に挙げられている言葉の間に関連性は見いだせなかった。

#### 4. 「公の言説」の検討

以上、ストックホルムとダーラナで実施したアンケート調査の結果を質問項目別に分析してみた。ダーラナの実選択率は、各質問項目、アンケート実施場所によって異なり、特に2つの場所では回答結果に大きな差が出た。ダーラナの実選択率はストックホルムよりもダーラナの方が遥かに高く、すべての質問項目でダーラナ地方が1位に選ばれ、しかもその数値はストックホルムをかなり上回り、a. b. とともに2位との差が抜きんでて大きかった。ダーラナ在住者が日常生活圏を「典型的スウェーデン」、「心のふるさと」、「伝統文化」と意識していることは十分読みとれたわけである。しかしダーラナでのアンケート調査の目的は本来ストックホルムとの比較にあるので、ここではこれ以上細部に立ち入ることを控え、次の課題、「公の言説」の検討に移りたい。ここでは、スウェーデン各地方の人々の意向をより強く反映したストックホルムでの調査結果をもとに考察を進めていくことにする。

全体的にはストックホルムの調査においてもダーラナの存在感を印象づける結果が出たと言ってよいだろう。地方名を選ぶ問、1) から3) において、ダーラナの名がa. b. とともに上位に浮上し、しかも2)を除いてはすべての項目で首位を占めたからである。2) についても、b. では2位と健闘している。問題はこのような事実をもって「公の言説」の確認が可能かということになる。

質問項目、1) から4) の中で、言説の確認が一見容易に見えたのは4) である。ここでは「伝統的スウェーデン文化」と「ダーラナ地方」との結びつきが他の2地方を抜きんでて強く、しかも「心のふるさと」を連想させる「ノスタルジア」が2位に上がっていた。このため「伝統的スウェー

ーデン文化」(68,2%)と「ノスタルジア」(13,9%)の双方を合計すれば言説の妥当性を裏付けるに十分な数字となる。

しかし、3-4.でも触れたように、4)の問の形式は1)から3)までとは異なり、「ダーラナ」という有名な地方名をはっきりと回答者の前に提示している。この点でダーラナの言説を誘導しやすかったことは否めない。「ダーラナ」の名を聞けば、個人的に同感するか否かは別として、反射的にダーラナの言説が思い浮かぶことは十分考えられる。質問対象はダーラナに限らないとはいえ、一国のシンボルをも生み出した有名な「地方」について、誰でも知っている「伝統的スウェーデン文化」という言葉が高い確率で選ばれることはあらかじめ予想できたと言えよう。言説の妥当性の判断には、やはり「ダーラナ」の名をあえて表に出していない問、1)から3)の結果を再検討する必要がある。そこでは人々が無意識のうちに表明したダーラナへの潜在的思いが読みとれるからである。

さて、質問項目、1)から3)の中で、特に重要なのが2)を除いた1)と3)である。更にこの2つの回答結果を検討する上で問題になるのが、a.とb.の差である。1)については、先に3-1.で、a.の値(37,2%)が相対的にはかろうじて高く、しかもb.において70%を越え、2位との開きも42ポイントと、a.の場合よりも1,5倍以上増えていることから言説は妥当と考えた。3)については、a.の値は39,5%と、1)のa.より若干多いものの、b.の値が6割を切っている理由で言説の確認を躊躇した。いずれもb.に比重をおいての判断である。b.とは、ダーラナの名が1番から3番までのいずれかに上った率である。これに対してa.は、ダーラナの名が一番最初に上った率、すなわち質問を聞いてすぐに「ダーラナ地方」を思いついた人々の割合を示したものである。調査当時、アンケート回答の様子を見ると、

最初の地方はすんなりと選ばれるのだが、2番目、3番目となると時間がかかる場合が多かった。それ故、厳密な回答を求めるならば、a.に比重をおいた判断が必要になろう。そこでa.の値に改めて着目することになる。1) 37,2%, 3) 39,5%という数字は「公の言説」の妥当性を裏付ける値として十分だろうか。

4 割弱というこれらの数値は、こうしたことを判断する上で境界線上の値と思われるので結論を引き出すのが難しい。しかし、本稿冒頭で述べたスウェーデンにおける「ダーラナ地方」の特殊性を考慮するならば、本来かなり高い値が期待できるはずである。スウェーデンの中で、1地方の特産品が一国のシンボルになったり、「伝統文化」の一言だけで形容が可能だったり、海外向けのどの観光案内小冊子の中にも必ず紹介されているような「地方」はダーラナ地方以外にない。又、エスノロジスト達がダーラナの名を口にした時、専門家としてスウェーデン人の意向を代弁しているようにも見えた。それ故、少なくとも7割近い値を期待してもよいはずである。そう考えると4割弱という数字はもの足りなく、結論としては「低い」数値と判断せざるをえない。もちろん、これらの値双方とも1位に挙がっていること、2位との間に一定の開きがあることから、言説の存在価値を否定しているわけではない。ただ、ダーラナ地方が質問項目1)「典型的スウェーデンの地方」、同3)「昔からの風俗習慣が強く残っている地方」として、個人レベルで実際にどれ程強く認識されているかに関しては、今回挙がった数値を見る限り、否定的な見解を持たざるえないということである。

アンケート開始前、ストックホルムとダーラナの歴史的関係上、言説を支えているのは「ストックホルムの人々」という予想を立てていた。1.の冒頭で述べたように、ストックホルムはダーラナの主要な求職地であり、ストックホルム出身者及びストッ

クホルムからの帰郷者がダーラナ地方の伝統文化の保護育成に果たした役割は大きかったからである。しかし実際には、ストックホルム全体のダーラナ選択値(2-2-1.)はそれ程高くはならず、今述べたように厳密な意味では「低い」値と結論づけるに至った。それに対して、ダーラナ全体の値(2-2-2.)はストックホルムを遥かに上回り、数字の上から判断すれば、言説を支えているのは「ストックホルムの人々」ではなく、「ダーラナの人々」という結果になる。

しかしここで、「ストックホルム」の影響がアンケート全般から読みとれなかったわけではないことを付け加えておきたい。特に、今述べた「ダーラナの人々」の中でもそれが明白なのである。今回、言説の妥当性を検討する際に依拠した質問項目、1)及び3)のa.について言うと、「ダーラナの人々」の中で、最も高いダーラナ選択値を出したのは「ストックホルム」出身者であった。資料(2)及び(3)には、ストックホルムとダーラナ地方出身者の回答動向を掲載したが、重要な質問項目、1)と3)のa.の平均値を高い順に列挙すると以下ようになる。1.「ストックホルム在住のダーラナ出身者」83,3%<sup>19)</sup> 2.「ダーラナ在住のストックホルム出身者」70,8%<sup>20)</sup> 3.「ダーラナ在住のダーラナ出身者」66,6%<sup>21)</sup>の順である。すなわち「ダーラナ生れのダーラナ育ち」よりも、何らかの形で「ストックホルム」とかかわりを持つ人間の方がダーラナを選ぶ率が高かったのである<sup>22)</sup>。アンケート全般でダーラナの選択率を陰で引き上げていたのがこの「ストックホルム在住あるいは出身」という要素で、これと「ダーラナ」が結びついたところでダーラナ選択率が更に高まったと言える。

以上、ストックホルムでの結果をもとに言説の妥当性について若干の考察を試みた。言説を検討する際、a.とb.の双方の値

を考慮したが、最終的にはa.の値をもとに言説の妥当性を判断した。a.は人々が即座にダーラナ地方の名を連想するという点で、アンケート調査の答として、b.よりも厳密度、信憑性が高いと考えたからである。また突きつめればこの値はダーラナ地方について、潜在的な個人見解の率直な表明とも言える。個人レベルでダーラナ地方がどの位強く認識されているのかとは、換言すれば、個々人の潜在意識の中に、「ダーラナ地方」=「典型的スウェーデン」、「伝統文化」、引いては「心のふるさと」という図式が定着しているか否かと同義でもある。今回の「低い」数値は、こうした問に対する無意識なうちの正直な意思表示とも思える。

厳密な意味では「公の言説」を確認できなかったが、それでもダーラナ地方の存在感をアンケート結果全般から十分感じとれたことは既に述べた通りである。ことに4)において、ダーラナ地方だけが「伝統的スウェーデン文化」と「ノスタルジア」が結びついて上位1,2位を独占した時、「ダーラナ地方」のイメージの強さを改めて感じたものであった。人々が個人的にどう認識していようと、実際にそう信じていようといまいと、ダーラナ地方は、「典型的スウェーデン」、「旅行や休暇」、「昔からの風俗習慣」、「伝統的スウェーデン文化」のいずれもを語る際、必ず浮上する地方であることは今回の結果から見て疑問の余地はない。大多数のスウェーデン人は、ダーラナの言説に対する個人的見解を越えたところで、「ダーラナ地方」の存在意義を認めていると思われる。「公の言説」が読みとれないとは、繰り返すが、言説の存在価値そのものの否定ではなく、それが今回のようなアンケート調査の際、個人の回答に期待したような影響力を及ぼさないという意味においてである。

## おわりに

以上、アンケート調査の結果について分析と言説の検討を試みた。「地方」はスウェーデン人にとって関心のあるテーマだったようで、アンケートの依頼に対しては、ごくわずかの例外を除き、快諾してもらえることができた。しかもかなり真面目に、「熟考」して答えてくれたことは今でも印象に残っている。

a. と b. に分けて集計したアンケートの結果は、どちらを重視するかによって言説の妥当性の判断が分かれるところである。今回の回答者数はストックホルム、ダーラナを合わせても200名余りで、アンケートを直接依頼し、その場で回答を回収することが可能であった。回答者の様子から判断して、a. の方が厳密性が高いと思われ、これをもとに言説の検討を行った次第である。

アンケート全般を振り返って気にかかることも幾つか出てきた。その1つが、今も言及した回答者の人数である。今回の調査は単独で実施した上、年齢層、出身地を考慮しながら回答者を探していたため、おのずと依頼できる人数が限られていた。200余名という人数が、「公の言説」への問いかけという大きな課題を扱うには余りにも少ないという批判を免れないとは思っている。しかし、偶然とはいえ、ストックホルムの質問項目、1) から3) のb. に挙げた地方全部がスウェーデン観光案内小冊子に取りあげられていたことを考えると、少ないながらもスウェーデン人の意向がある程度は反映できたのではと思っている。またこの人数だったからこそ、本来機械的な「アンケート」にもかかわらず、回答の様子をじっくりと眺めたり、おしゃべりをしたり、「地方」について教えてもらったりと、文化人類学特有の「参与観察」を少し楽しむことができた。

出身地の取り扱いも気を遣ったことの1つである。今回ストックホルムでは、全回答者129名中、地方出身者を半分以上(71名 55%)確保することができた(2-2-1. 5) 参照)。このため、ストックホルムでの調査は、少ない人数ながらも、より幅広い層のスウェーデン人の意向が反映されたと思うのだが、結果として地方にはばらつきが出ており、全国から平均的に選り出すことは難しかった。その上、「ストックホルム出身」と答えても、「ストックホルム在住者」にすぎず、実際は地方生れのこともあり、出身地については、わかった範囲で訂正をしたものの、回答者の自己申告に任せざるをえなかったのが実情である。

それでもスウェーデン人は故郷への愛着が強いことから出身地方の選択率は気になるところであった。回答の様子を見ていて、どこかにそれを選択しがちであることは感じていたが、果たして質問項目、1), 2) では、約半数が自分の出身地方を選んでいった(資料(4) 1. 1) b. 及び、2) b. 参照)。尤も、「b. 50%」前後の値をどう評価するかについては判断が難しいところであろう。しかし、少なくともストックホルム在住の地方出身者の半数以上が、「典型的スウェーデン」に自分の出身地方を挙げたことは特筆に値しよう。これは自分の故郷を「スウェーデンの代表」と考えていることと同じである。ここから「心のふるさと」をダーラナだけに限定してしまうことに躊躇してしまうのだが、個人的見解を越たところでダーラナ地方の存在意義が判明した今、逆に、この地方の存在故に、スウェーデン人それぞれの故郷に対する思いが喚起されるのでは思ったりもしている。今後の課題である。

## 註

- 1) 以下、本稿では、ダーラナ地方を「ダーラナ」(本文中、例外を除き「」は外す)と略記することがある。
- 2) 「地方」(landskap) とは、ヴァイキング時代(AD.800頃-1050頃)の小首長国に遡る区分だが、現代でも人々の意識の中に浸透している。行政区域として、日本の都道府県にあたる“län”があるが、人々の帰属意識は“län”よりも、「地方」(landskap)にある。
- 3) 本文中の a. から d. は、いずれもスカンジナビア政府観光局発行の小冊子からの抜粋であるが、出典は以下の通りである。 a. 『スウェーデン』1988 33頁 b. *ibid.* c. 『SWE-DEN スウェーデン』1990 12頁 d. 『スウェーデン：旅行ガイド』1994 28頁 尚、各下線は私が引いたものである。
- 4) 教区にもとづく34種類の民俗衣装が報告されている。これは、ダーラナ地方の面積(国内4番目)を考慮しても突出した数字である。半数近くの地方が10種類以下であり、ダーラナ地方よりも面積の広いイエムトランド地方でさえ、24種類にとどまっている(Berg 1985 [1975])。
- 5) 1939年のニューヨーク万国博覧会でスウェーデンのシンボルとして紹介された。私の調査期間中もスペインのセルヴィアで万国博が開催されたが、スウェーデン館の入口には等身大の“dalahäst”が据えられ、注目を集めた(1992年5月11日付 *Dala Demokraten* 邦訳『ダーラナ民主主義者新聞』)。
- 6) 1520年、スウェーデンはデンマークに占領され、首都ストックホルムでは82人の貴族が処刑された。グスタフ・バーサの父親もこの犠牲者の一人で、グスタフは占領国デンマークからスウェーデンを解放すべく、反乱軍の組織を呼びかけた。この呼びかけに応じたのが唯一、ダーラナの農民だったと言われている。
- 7) 調査村落決定に至る経緯はストックホルム大学エスノロジー研究所主催のセミナー(1991年5月29日)で詳述した。尚、ダーラナ地方での現地調査は1991年1月から92年12月まで実施し、その間、the Swedish Institute(1990年9月～1993年2月)と「スカンジナビア・ニッポンササカワ財団」(1992年度)の研究助成を受けた。
- 8) 本文、2-2-1. の5) で記した通り、ストックホルムでは全回答者の55%にあたる71名が地方出身者である。その内訳を多い順から記載している。
- 9) 例えば、日本にも紹介されたスウェーデンの

- 「国民画家」と呼ばれるカール・ラーション(Carl Larsson 1853-1919)や、世界最初の野外博物館、ストックホルムの「スカンセン」の創設者、アーテュール・ハゼリウス(Artur Hazelius 1833-1901)などを挙げることができる。
- 10) スウェーデンでの調査期間中、ストックホルム大学エスノロジー研究所に客員研究員として在籍していた。その際、Åke Daun教授には、調査村落についての助言、研究図書の提供、スウェーデン国内のエスノロジストの紹介など、あらゆる面で研究の便宜をはかって頂いた。
- 11) 優先順位の高い方から先に記入するようお願いした。
- 12) a. から e. の5つの選択肢の中に適当なものが見当たらない場合、記入の必要はないとした。また、複数回答も認めた。
- 13) 優先順位の第1番目に挙げた地方である。尚、紙面の都合上、5位までしか記載しておらず、以下は略してある。
- 14) 優先順位の第1番目に挙げた地方を含め、3つの( )のどこかに名前が挙げた地方の総計。紙面の都合上、5位までしか記載しておらず、以下は略してある。
- 15) 紙面の都合上、4位までしか記載しておらず、以下は略。
- 16) 紙面の都合上、4位までしか記載しておらず、以下は略。
- 17) 以下、a. と略記する。
- 18) 以下、b. と略記する。
- 19) 83,3%という値は、「資料(3) ダーラナ地方出身者の回答動向 1. スtockホルムにて」における、1). a. 83,3%と、3). a. 83,3%の平均値である。
- 20) 70,8%という値は、「資料(2) スtockホルム出身者の回答動向 2. ダーラナにて」における、1). a. 75%と、3). a. 66,6%の平均値である。
- 21) 66,6%という値は、「資料(3) ダーラナ地方出身者の回答動向 2. ダーラナにて」における、1). a. 77,7%と、3). a. 55,5%の平均値である。
- 22) その顕著な例を「資料(3) ダーラナ地方出身者の回答動向」の中に見ることができる。「質問項目3) 昔からの風俗習慣が強く残っている地方」のa. の値について、「ダーラナ在住のダーラナ出身者」{資料(3) 2. ダーラナにて 3)}は55,5%なのに対し、「ストックホルム在住のダーラナ出身者」{資料(3)

1. ストックホルムにて 3)} は、83,3%と群を抜いて高い値を出している。

#### 引用文献

和書)

スカンジナビア政府観光局

1988 『スウェーデン』

1990 『Sweden スウェーデン』

1994 『スウェーデン 旅行ガイド』

洋書)

Arnö-Berg, Inga & Hazelius-Berg, Gunnel

1985 [1975]

*Folkdräkter och byggde-dräkter från hela Sverige* (邦訳『スウェーデンの民俗衣装』) Västerås, Sweden ICA-förlaget

1992 *Dala Demokraten* (邦訳『ダーラナ民主主義者新聞』 5月11日付)

Löfgren, Orvar & Gaunt, David

1985 *Myter om Svensken* (邦訳『スウェーデン性の神話』) Stockholm Liber

## 資料 (1)

- 1) Om du vill nämna för en utlänning ett typiskt svenskt landskap, vilket väljer du då? Nämna tre typiska svenska landskap !  
 (                    ) (                    ) (                    )
- 2) Till vilket landskap vill du själv gärna resa eller i vilket landskap tillbringar du själv gärna din fritid? Välj tre alternativ bland de svenska landskapen.  
 (                    ) (                    ) (                    )
- 3) I vilket landskap tror du att gamla seder och bruk mest finns kvar? Välj tre alternativ bland de nedanstående landskapen.  
 (                    ) (                    ) (                    )

LANDSKAP : 1.Lappland 2.Norrbotten 3.Västerbotten 4.Ångermanland 5.Jämtland  
 6.Härjedalen 7.Medelpad 8.Hälsingland 9.Gästrikland 10.Dalarna  
 11.Uppland 12.Västmanland 13.Närke 14.Södermanland 15.Värmland  
 16.Östergötland 17.Västergötland 18.Småland 19.Blekinge 20.Skåne  
 21.Halland 22.Dalsland 23.Öland 24.Gotland 25.Bohuslän

- 4) Med vilket ord skulle du vilja beskriva följande tre landskap? Tycker du att något av följande ord passar?

Lappland (                    ) Dalarna (                    ) Småland (                    )

a.öppenhet b.konservatism c.modernitet d.nostalgi e.traditionell svensk kultur

- 5) Varifrån kommer du själv?  
 (                    ) Stockholm  
 (                    ) annan plats(Nämna ett landskap bland ovanstående.)
- 6) Din ålder är : (                    ) yngre än 19år (                    ) 20—29 (                    ) 30—39  
 (                    ) 40—49 (                    ) 50—59 (                    ) äldre än 60år

## 資料（２）ストックホルム出身者の回答動向

### 1. スtockホルムにて

（アンケート全回答者129名中、ストックホルム出身者58名の回答結果より）

- 1) 外国人に名前を挙げるべき典型的なスウェーデンの地方
  - a. 「ダーラナ」を一番始めに挙げている 20人 (34,4%)
  - b. 「ダーラナ」を挙げている 40人 (68,9%)
- 2) 旅行したり、休暇を過ごしたりしたい地方
  - a. 「ダーラナ」を一番始めに挙げている 4人 (6,8%)
  - b. 「ダーラナ」を挙げている 10人 (17,2%)
- 3) 昔からの風俗習慣が強く残っている地方
  - a. 「ダーラナ」を一番始めに挙げている 23人 (39,6%)
  - b. 「ダーラナ」を挙げている 31人 (53,4%)

### 2. ダーラナにて

（アンケート全回答者72名中、ストックホルム出身者12名の回答結果より）

- 1) 外国人に名前を挙げるべき典型的なスウェーデンの地方
  - a. 「ダーラナ」を一番始めに挙げている 9人 (75%)
  - b. 「ダーラナ」を挙げている 11人 (91,6%)
- 2) 旅行したり、休暇を過ごしたりしたい地方
  - a. 「ダーラナ」を一番始めに挙げている 3人 (25%)
  - b. 「ダーラナ」を挙げている 7人 (58,3%)
- 3) 昔からの風俗習慣が強く残っている地方
  - a. 「ダーラナ」を一番始めに挙げている 8人 (66,6%)
  - b. 「ダーラナ」を挙げている 8人 (66,6%)

## 資料（３）ダーラナ地方出身者の回答動向

### 1. スtockホルムにて

（アンケート全回答者129名中、ダーラナ地方出身者6名の回答結果より）

- 1) 外国人に名前を挙げるべき典型的なスウェーデンの地方
  - a. 「ダーラナ」を一番始めに挙げている 5人 (83,3%)
  - b. 「ダーラナ」を挙げている 6人 (100%)



- 2) 旅行したり、休暇を過ごしたりしたい地方
  - a. 「ダーラナ」を一番始めに挙げている 3人 (50%)
  - b. 「ダーラナ」を挙げている 4人 (66,6%)
- 3) 昔からの風俗習慣が強く残っている地方
  - a. 「ダーラナ」を一番始めに挙げている 5人 (83,3%)
  - b. 「ダーラナ」を挙げている 6人 (100%)

## 2. ダーラナにて

(アンケート全回答者72名中、ダーラナ地方出身者45名の回答結果より)

- 1) 外国人に名前を挙げるべき典型的なスウェーデンの地方
  - a. 「ダーラナ」を一番始めに挙げている 35人 (77,7%)
  - b. 「ダーラナ」を挙げている 43人 (95,5%)
- 2) 旅行したり、休暇を過ごしたりしたい地方
  - a. 「ダーラナ」を一番始めに挙げている 19人 (42,2%)
  - b. 「ダーラナ」を挙げている 26人 (57,7%)
- 3) 昔からの風俗習慣が強く残っている地方
  - a. 「ダーラナ」を一番始めに挙げている 25人 (55,5%)
  - b. 「ダーラナ」を挙げている 38人 (84,4%)

## 資料(4) 出身地方に対する見方

### 1. ストックホルムにて

(ストックホルムの全回答者129名中、ストックホルム及びダーラナ地方出身者を除いた合計65名の地方出身者の回答結果より)

- 1) 外国人に名前を挙げるべき典型的なスウェーデンの地方
  - a. 自分の出身地方を一番始めに挙げている 23人 (35,3%)
  - b. 自分の出身地方を挙げている 34人 (52,3%)
- 2) 旅行したり、休暇を過ごしたりしたい地方
  - a. 自分の出身地方を一番始めに挙げている 24人 (36,9%)
  - b. 自分の出身地方を挙げている 33人 (50,7%)
- 3) 昔からの風俗習慣が強く残っている地方
  - a. 自分の出身地方を一番始めに挙げている 14人 (21,5%)
  - b. 自分の出身地方を挙げている 20人 (30,7%)

## 2. ダーラナにて

(ダーラナの全回答者72名中、ストックホルム及びダーラナ地方出身者を除いた  
合計15名の地方出身者の回答結果より)

## 1) 外国人に名前を挙げるべき典型的なスウェーデンの地方

- |                       |          |
|-----------------------|----------|
| a. 自分の出身地方を一番始めに挙げている | 3人 (20%) |
| b. 自分の出身地方を挙げている      | 6人 (40%) |

## 2) 旅行したり、休暇を過ごしたりしたい地方

- |                       |            |
|-----------------------|------------|
| a. 自分の出身地方を一番始めに挙げている | 5人 (33,3%) |
| b. 自分の出身地方を挙げている      | 8人 (53,3%) |

## 3) 昔からの風俗習慣が強く残っている地方

- |                       |            |
|-----------------------|------------|
| a. 自分の出身地方を一番始めに挙げている | 2人 (13,3%) |
| b. 自分の出身地方を挙げている      | 4人 (26,6%) |

**ABSTRACT****Dalarna, is it a heart of Sweden ?**

Analysis on the basis of the questionnaire on the region

Mayumi FURUKAWA

The aim of this paper is to examine, so called, a Swedish myth of Dalarna (Dalecarlia in English), “Dalarna is a heart of Sweden, a home place for Swedes irrespective of whether they really come from.”

The method of this examination is questionnaire, which I asked to answer in Stockholm and in Dalarna. In Stockholm, a capital of Sweden, I have received 129 answers which include not only native Stockholmers but also people from every possible Swedish regions (landskap in Swedish). In Dalarna, answers are 72, not only of native Dalecarlians, but also of those from other regions including Stockholm.

The results differ in Stockholm and Dalarna. The rate of choosing Dalarna is much higher in Dalarna than that in Stockholm. But in general, most Swedes have chosen Dalarna in response to the following questions; which region you recommend foreigners as a typical Sweden, to which region you want to take a trip or spend holidays, and in which region old traditions are most well-preserved, etc. But it does not mean “the myth of Dalarna” has been confirmed.

In Stockholm the priority of choosing Dalarna in each question is relatively low, which does not seem to fit a well-known saying, “Dalarna is a heart of Sweden.” Having analysed the results, I found that most Swedes are very familiar with that saying, but whether they really believe in it or not is another question.

In addition, ‘Stockholmer’ or ‘Stockholm’ is an important factor which increases the rate of choosing Dalarna. Those who have connection with Stockholm show higher rate of choosing Dalarna.